

読書推進運動

公益社団法人
読書推進運動協議会

〒162-0828
東京都新宿区袋町6
日本出版クラブ会館内

TEL 03(3260)3071
FAX 03(5229)1560

発行人 宮本 久
編集人 片岡 伸子

定価 60円

会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.582

- ★「野間読書推進賞」候補者推薦のお願い(2頁)
- ★「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」開催へ(5頁)



絵本を「感じる」「つくる」「伝える」

—「全国絵本ミュージアム会議」開催にむけて—

射水市大島絵本館事務局長

つちだ よういち
土田陽一

〈射水市大島絵本館〉は、1994年8月開館の施設で、年間約4万人の来館があります。当館が目指しているのは、絵本を通しての〈夢創造〉です。想像力を刺激するしかけに満ちた庭園のなかの絵本館の館内には3つのテーマ「感じる」「つくる」「伝える」にそって、各スペースが設けられています。

まずは「感じる」。〈ライブラリー〉では、国内外の1万冊以上の絵本が、当館独自の分類法で配架されています。〈ギャラリー〉では、絵本原画を2か月ごとに入れ換えて展示。スタッフ会議などで選ばれた人気の作家から年間6名を選定して、絵本作家を紹介しています。北陸地区では数少ない絵本原画を見ること

のできるギャラリーとして、地域の絵本ファンの方々に愛されています。〈カフェギャラリー〉では、富山県で活躍中の作家の作品をご覧になりながら、喫茶や食事をしていただくことができます。

絵本と少々縁遠い子どもたちも楽しめる、「つくる」〈ワークショップ〉では、簡単な絵本や季節のカードづくりなどが楽しめます。当館オリジナルの手づくり絵本キットは、種類も豊富で人気。〈C Gワークショップ〉では、パソコンとお絵かきソフトでオリジナルグッズがつくれます。使用方法の説明やアドバイスしますので、初めての方でも満足できるオリジナルグッズをつくれます。

そして「伝える」。〈シア

ター〉には、約200席の客席があり、絵本DVDの上映をはじめ、絵本を題材にした演奏会、人形劇、おはなし会、講演会、セミナーなどさまざまなイベントを開催しています。

当館では、絵本づくりのおもしろさを多くの人に楽しんでもいただくために、〈手づくり絵本コンクール〉を年間2回行っています。また、富山県内の保育所、児童館、各市町村の子育て支援機関などの依頼に応じて、スタッフを派遣して読み聞かせや講演、絵本づくりワークショップの〈出前講座〉を積極的に行っています。

絵本文化と当館をより知っていたいただくために、絵本原画展を開催中の絵本作家の紹介

やお薦めの絵本、館のイベントなどの情報を盛り込んだ『マグちゃん通信』を、隔月で年間6回発行しています。ホームページからもPDFでご覧いただけます。

さらに今年9月には、多くの方々に絵本文化のすばらしさを伝え、絵本文化の振興を図るため、全国の絵本関連の美術館・博物館のネットワークづくりを目指した、「全国絵本ミュージアム会議」を当館で開催します。この日は入館無料とし、記念講演やシンポジウム、ワークショップなどのイベントを予定しています。詳細が決まりましたら、ホームページでご案内いたしますので、ご確認ください。

今後、全国の絵本ミュージアムのネットワークができれば、より多くの方々に絵本文化を楽しんでいただけるようになることを確信しております。

射水市大島絵本館はさまざまな形で絵本にふれあうことのできる、斬新な施設です。ぜひご来館ください。

第46回(平成28年度)

『野間読書推進賞』

受賞候補者推薦のお願い

公益社団法人 読書推進運動協議会は、読書の普及に貢献し、讃えられるべき業績をあげながらも、報われることの少なかった個人および団体を顕彰してまいりました。

この賞は、1969年(昭和44年)、当協議会の社団法人設立を機会に、野間省一 講談社社長(当時)より1000万円の寄付を受け、1971年(昭和46年)に「読書推進賞」を設定、1979年(昭和54年)に講談社創業70周年記念として1000万円、1987年(昭和62年)に講談社創業80周年を記念して2000万円の寄付を受け、その基金を中心にして運営しているものです。「読書推進賞」は、1985年(昭和60年)より、「野間読書推進賞」と改めました。本年度も次に掲げる要項にしたがって、実施いたします。みなさまからのご推薦をよろしくお願いいたします。



野間読書推進賞賞牌

過去に推薦いただいた個人や団体を再度ご推薦くださってもかまいません。

4 推薦方法

- ① 全国都道府県および政令指定都市教育委員会
- ② 都道府県中央図書館および読書推進運動協議会
- ③ 全国市町村教育委員会連合会
- ④ 日本PTA全国協議会
- ⑤ 日本新聞協会
- ⑥ 日本放送協会
- ⑦ 日本民間放送連盟

などに候補者推薦を5月中に依頼します。

1 賞

賞状および賞牌

2 副賞

- 金30万円(団体の部)
- 金20万円(個人の部)
- 金5万円(奨励賞)

3 受賞の対象

地域や職域などにおいて、読書の普及に永年力を尽くし、読書推進運動に貢献された個人または団体。業務として読書推進に関する事業に従事する者、また学校図書館関係は除外します。

個人の場合、年齢、職業に、団体の場合、会員数、規模などに制限はありません。

7 受賞者決定まで

推薦締切後、8月下旬に15名の野間読書推進賞運営事業委員からなる選考準備委員会で候補者を絞り、9月上旬に3名の選考委員からなる選考委員会で、団体の部、個人の部と、必要が認められた場合は奨励賞の受賞者を決定します。各賞の受賞者は、原則として2団体(2名)以内とします。

8 選考委員

- 菅原良郎 公益社団法人全国学校図書協議会 顧問
- 小峰紀雄 株式会社
- 小峰書店 社長
- 水川玲子 公益社団法人 日本図書館協会 参与



昨年度受賞者、推薦者のみなさんと野間読書推進賞選考委員

■平成28年度 定時総会開催のお知らせ

- 一、日時 平成28年6月21日(火) 午後3時~4時30分
- 一、場所 日本出版クラブ会館 (東京都新宿区袋町6) 03-33267-6111
- 一、議事・第1号議案 平成27年度事業報告書と決算報告書
- ・第2号議案 役員交代
- ・その他

*5月中旬に議案書(平成28年度年次報告書)と出欠ハガキを送ります。ハガキのご返信と当日のご参加を、よろしくお願ひ申し上げます。

9 結果の通知

受賞者決定後、受賞者とその推薦団体へ、すみやかに通知します。また、すべての推薦団体に、選考結果を文書にてお知らせします。

10 贈呈式

2016年(平成28年)11月1日 日本出版クラブ会館にて 出版界、および図書館界の関係者(団体)、これまでの野間読書推進賞受賞者、「読書推進運動」執筆者のみなさんなどが出席されます。昨年の贈呈式の様子を、当協議会ホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。

■平成28年度「絵本ワールド」開催予定

石川、奈良、鳥取につづき 新潟も連続開催が決定！

「子どもの読書活動推進会議」が推進する「絵本ワールド」が今年も全国で開催される。石川、奈良、鳥取では15年以上も連続開催、昨年復活した新潟も開催が決定した。

【開催決定】

親と子の絵本ワールド・イン・いしかわ2016
7月16日(土)・17日(日)
石川県金沢市 北國新聞赤羽ホール

絵本ワールドin新潟
7月30日(土)・31日(日)
奈良県奈良市ならまちセンター
絵本ワールドinいがた2016
11月13日(日)
新潟県新潟市 朱鷺メッセ
有田川町 絵本マルシェ
11月19日(土)・20日(日)
和歌山県有田川町 有田川町地域交流センター A L E C

【開催予定】

絵本ワールドinふくしま2016
8月13日(土)・14日(日)
福島県郡山市 ビッグパレットふくしま
絵本ワールドinとっとり2016
12月17日(土)・18日(日)
鳥取県鳥取市 県民体育館



昨年度の「絵本ワールドinとっとり」には、よしながこうたくさんが登場

■「本が好き」のご案内

この国の未来のために、 出版物にも軽減税率を

来年4月に予定されている消費増税では、現在、出版物への軽減税率適用は厳しい状況にあり、個人や図書館などでの出版物購入の負担が増える懸念がある。公益社団法人 読書推進運動協議会は、想像力を育み、知的好奇心を満たす出版物は「心の糧」であり、生きていくには不可欠なものであることを広く知ってもらい、軽減税率の適用を求めていく運動「本が

好き」に参加している。

運動の端緒として、読書推進運動協議会ではこれまでの野間読書推進賞受賞者のみなさんに、「本が好き」の趣旨と今後の展開を紹介し、参加を呼びかけ、48グループの参加をいただいた。「本が好き」では、5月5日の新聞各紙に1ページの意見広告を掲載して、広く世間に訴えた。また、5月3〜5日の上野の森親子フェスタで



「本が好き」ロゴマーク

もこの運動を紹介した。

「本が好き」のホームページでは、参加団体の活動を報告して世間に読書推進運動の現場を知ってもらい、出版物への軽減税率適用の必要性を発信していく。今後も新規参加者を募集していくので、趣旨にご賛同の読書グループはぜひ、ご検討ください。

（本が好き）ホームページ

<http://www.hongasuki.jp>

■文部科学省などがフォーラムを開催

子どもの読書活動推進のための 学校・図書館・団体の実践活動を顕彰

4月23日(土)の子ども読書の日、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで、「子どもの読書活動推進フォーラム」(主催：文部科学省/国立青少年教育振興機構)が開催された。

式典は、主催者挨拶のあと、文部科学大臣賞の代表者授与が行われた。優秀実践校は、全国4校を代表して、高知県の高知市立城東中学校と富山県の富山第一高等学校。優秀実践図書館は全国48館を代表して福島県の会津若松市立会津図書館。優秀実践団体(個人)は、全国59団体(名)を代表して徳島県のおはなし「にじの会」に表彰状が手渡された。

引きつづき、絵本作家の宮西達也さんが「絵本の持つ力」と題して講演。自作の読み聞かせを交え、笑いの溢れる楽しい講演となった。そして「絵本は大人にこそ読んでほしい、親子で読んでほしい、子どもに感動を知る心豊かな人間に育ってほしい」と締めくくった。

事例発表と対談では、川村学園女子大学の田中孝一教授をコーディネーターに代表者授与を受けた4団体の代表が「読書の魅力を広めるために」のテーマでそれぞれ活動事例を報告した。



スクリーンを使用した事例発表と対談

城東中学校の「朝読や読書標語コンクール」による読書活動の定着、「富山第一高等学校の読書委員の設置や読書カードの導入による学級・学年単位の読書推進」、会津図書館の「調べる学習コンクールやビブリオバトルなどの図書館主導の地域活動」、おはなし「にじの会」の「スマイリーマルシェ」などの地域連動の読書活動などについて質疑応答がなされた。

■国際子ども図書館講演会

中島京子さんの創作を支える 「かがやくべき読書」

国立国会図書館国際子ども図書館(東京都台東区)は4月23日(出)子ども読書の日を記念し、講演会「私が子ども時代に出会った本―中島京子」を、日本ペンクラブとともに開催し、『小さいおうち』「かたづの!」などの著者 中島京子さんが、子ども時代の読書体験を語った。



次々と本を紹介しながら、子ども時代の読書の思い出を語る中島京子さん

「子ども時代の読書が創作の原点」という中島さんは、実家に残っていた本の写真を披露しながら、思い出深かった本、いまでも好きな本を紹介。初めて買ってもらった本、ディック・ブルーナの『うさこちゃん』シリーズには、「まだ文字を覚えていかなかったけれど、母の筆跡をまねて自分の名前を書き入れた」ことや、3歳上のお姉さんといまでも『クマのプーさん』に出てくることばで話しあえること、『ナルニア国ものがたり』が大好きで、なんとかしてナルニアに行こうと押し入れや田舎の長持に入ってみたこと、また、岡田忠軒さんの訳した『鏡の国のアリス』の意味不明なことばがならぶ一節を、「口調がよくて、覚えてしまいました」とすらすらと唱えるなど、豊かで楽しいエピソードを披露した。

そのほかにも、『秘密の花園』『ふくろ小路一番地』『エーミールと探偵たち』『トム・ソーヤの冒険』『ハックルベリー・フィンの冒険』『アイヴィッド・コパーフィールド』、日本の作品では大宰治の短編や、草野心平、山之口鏡の詩が大好きだったと語った。幼いころ、お姉さんと「出版社ごっこ」をしていたというエピソードには、会場から大きな笑いがわいた。

■「上野の森親子フェスタ」開催

春の「子どもの本のおまつり」が 上野の森に帰ってきた!

5月3日(祝)〜5日(祝)、東京都台東区の上野恩賜公園中央噴水池広場を中心に、「上野の森親子フェスタ(主催)子ども読書推進会議/日本児童図書出版協会/出版文化産業振興財団」が開催された。

昨年は諸事情より中止となった親子フェスタだが、これまでの反省をふまえて運営委員会を組織し、新たな枠組みのもとでの再開となった。



風の強い日もあったが、連日、おおぜいの人々が来場した

絵本や児童書をはじめ約5万冊の書籍を読者謝恩価格で販売。おおいの子どもと大人が、さまざまなお児童書を手に取り、楽しんだ。イベントテントでの読み聞かせやワークショップには作家も登場した。今年より、子どもの読書推進会議に参加している作家団体も出展しており、会場各所で行われたサイン会とともに、読者と作家のふれあいの輪を広げた。

講演会は、4日に東京都美術館講堂で、児童文学作家のくすのきしげのりさんが「一人一人がみんなたいせつ!絵本に託す願い(子どもの日)と「母の日」によせて」を、ミュージシャン・マジシャン・翻訳家の大友剛さんが「絵本とマジックと音楽の世界」を行った。

5日には、国立国会図書館国際子ども図書館で講演会「子どもの本をとおして平和を考える」が開催された。前半は翻訳家のさくまゆみさんのブックトーク「子どもの本を窓にして戦争と平和を考える」。戦争の悲惨さや恐怖だけ



アーサー・ビナードさんが手にしているのは、上野地区のミニコミ誌

を伝えるのではなく、いまを生きる子どもたちの実感にどうつながるかという視点から『ぼくがラーメンたべているとき』あざになったのでままとあけますよ』など、多くの書籍を紹介した。

後半は詩人のアーサー・ビナードさんの講演「子どもの本を通して平和を考える―戦争っておもしろい? 平和ってつまんない?」。ペリーの『日本遠征記』の原題と日本語タイトルとのズレなどを指摘したビナードさんは、「このズレがどうして起こったかを考えていくことが唯一、平和につながるのではないか」「でも、本質に根づいているものはズレないし、ことばの違いも乗り越える。児童文学はそうあってほしい」と語った。

「プラティスラヴァ世界絵本原画展」開催へ

絵本の半世紀とこれから見つめる
特別展が日本を巡回!

絵本作家・評論家・BIB国際審査員 広松由希子

日本巡回展と絵本の半世紀

「BIB」って?

スロヴァキア共和国の首都ブラティスラヴァで2年ごとに開催される「BIB」(Biennale of Illustrations Bratislava)は、世界最大の絵本原画コンクールのひとつで、絵本と子どもと平和の祭典です。日本では2000年より「プラティスラヴァ世界絵本原画展」(通称 BIB展)という名の巡回展として親しまれています。東西冷戦下にあった1965年、ユネスコと国際児童図書評議



各国選りすぐりの絵本を並べて最終審査への絞り込みをする審査員たち

会(BBY)の提唱によって創設され、1967年に第1回BIBが開催されました。子どもの本を媒介に人々が国境を越えてつながり、とくにイラストレーションの力が注目された時代でした。国際アンデルセン賞に画家賞が創設され(1966年)、ポロニーヤ国際絵本原画展が始まった(1967年)のも同じ時期です。2015年秋、BIBは記念すべき第25回目、創設50周年を迎えました。

BIB2015について

BIBでは、本国の審査の前に各国で予選審査が行われます。過去2年間に出版された絵本の画家からノミネートできるのは15人。年間500~600冊の新刊絵本(翻訳を除く)が出版される日本では、狭き門です。今回は、円熟のベテラン作家から、漫画など他分野より参入した新人作家まで、日本の作家層の厚さを反映し、幅広い作風の15人が選出されました。

各国選りすぐりの絵本原画が一室に集まった展示会場で、国際審査が始まります。初参加のパレスチナなどを加え、過去最高の50か国、35人による2426作品が審査対象です。国際アンデルセン賞画家のホジェル・メロを審査員長に、画家、編集者、研究者など国籍もキャリアも異なる11人で審査します。個々にじっくり鑑賞した後、全員で会場を巡り、挙手制で作品を絞っていきますが、二巡三巡と審査を重ねることに議論が深まります。絵の技術、物語性、革新性、子どもへの視点……絵本原画の評価基準は実に多様。必要に応じて本も参照します。ときにぶつかりあいながらも、たがいの視点を尊重した真剣な討論は刺激的でした。各審査員に共通するのは、絵本への深い愛情と、出品作家全員に対する敬意でした。

根気よく二転三転を繰り返した4日間。最終的にグランプリ1人、金のりんご賞5人、金牌5人の受賞作家と、出版社賞が決定。議論

をつくした結果、グランプリはイギリスの若手作家ローラ・カーリンに。金のりんご賞には日本のミロコマチコが入りました。

2016年7月より、うらわ美術館を皮切りに「プラティスラヴァ世界絵本原画展 絵本の50年」これまでとこれから」が日本を巡回します。BIB50周年を記念し、特別な展示構成となっています。まず第一部では、BIBへの歴代参加作品のなから、日本の絵本史50年を振りかえります。BIBの創始期。それは日本が敗戦後から模索してきた独自の絵本文化が、大きく花開こうとしていた時期にあたります。瀬川康男の初代グランプリ受賞をはじめ、BIBでの高い評価や国際交流が、日本の絵本の発展にもたらしたものは、決して小さくありません。丸木位里・俊、田島征三、安野光雅……近年の久欠根育、酒井駒子やきくちちきに至るまで、過去半世紀の日本とBIBの歩みを原画と絵本で展覧し、現代絵本の成り立ちを一望する試みです。第二部は、BIB2015に参加した新しい日本の作品と受賞作を核に、選り抜かれた絵本原画を

通して、絵本のいまを見つめます。現地の審査でも評価の高かった日本のノミネート作品からは、死を見つめるもの、社会問題を掘り下げるもの、生命力漲るもの……東日本大震災以降に生まれた新しい表現を感じることができそうです。また今回、グランプリと金のりんご賞の作家6人については、受賞作以外の作品も特別出品します。スケッチや立体、特大ポスターなど、独創的な表現の秘密をうかがいながら、絵本の世界の大きなうねりと新しい展開が見えてくるかもしれません。

東西の絵本芸術の架け橋であり続けたBIB。先人たちが築いてきた平和の半世紀と、これからの絵本の可能性に、想いを馳せてみてください。



2015年金のりんご賞 ミロコマチコさんの『オレとキwaru』(WAVE出版)の原画

優良読書グループの歩み (5)

2015年度の「読書週間」に際して都道府県読書推進連動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

鹿沼読書会

代表者 青木 トク

栃木県鹿沼市

〈推薦〉

栃木県読書推進連動協議会

私たち「鹿沼読書会」は、1975年4月に故・市村よし先生の呼びかけで始まり、40年が経過いたしました。

当時の鹿沼市には独立した図書館がなく、公民館の3階を図書館として使用しており、会員も当初は10人ほどでした。私は30代のはじめでしたが、新たに20代の人も加わり、年齢もさまざままでいろいろな感想が出されてとてもにぎやかでした。毎月の読書会も盛況で欠席者はほとんどなく、館長さんもととき顔を出し、本の用意などにも協力していただきました。現在は年の始めの読書会後に新年会を行い、その年の計画を話しあうなど親睦を深めております。

気候のよい5・6月には文学散歩を行い、多角的に作者・作品を見つめることにしております。盛夏の折には暑気除けの食事会を行い、暑さや時のたつのも忘れて楽しんでおります。

みんなで長続きする方法を話しあったわけではありませんが、それぞれがすばらしい人格の持ち主で、人のプライバシーは守り、他人を傷つけるようなことは口にしません。また、人の感想や意見を

聴くことによつて、「そういう考え方、感じ方もあるのか」と改めて自分の考えの幼稚さに気づかされるのです。読後の感想発表会は、ほかの人の感想や意見を聴くことで、より深まったものになります。

家族の仕事の関係で他県への引越など、泣く泣く退会されたかたもおりますが、なんども励ましのお手紙をくださったりと、にぎやかに続けております。

現在、会員は満90歳を筆頭に、平均年齢78歳というところですが、健康の続くかぎり、この読書会を続けていきたいと考えております。



初夏の風に誘われての文学散歩

講師をしていただいたことが大きな原動力になったような気がします。本の感想はもちろんですが、

また、『大地の子』(山崎豊子)や『朱夏』(宮尾登美子)などを読み、先輩諸姉から戦時下における島根の様子や体験談を聴いて平和への願いを強く持つことが思われます。そして、文化協会の先生と一緒に神話の国出雲の歴史探訪に出かけ、古代に想いを馳せたことなど貴重な体験もしてきました。よい指導者に恵まれたことも長く続いた要因のひとつです。

また、『大地の子』(山崎豊子)や『朱夏』(宮尾登美子)などを読み、先輩諸姉から戦時下における島根の様子や体験談を聴いて平和への願いを強く持つことが思われます。そして、文化協会の先生と一緒に神話の国出雲の歴史探訪に出かけ、古代に想いを馳せたことなど貴重な体験もしてきました。よい指導者に恵まれたことも長く続いた要因のひとつです。

また、『大地の子』(山崎豊子)や『朱夏』(宮尾登美子)などを読み、先輩諸姉から戦時下における島根の様子や体験談を聴いて平和への願いを強く持つことが思われます。そして、文化協会の先生と一緒に神話の国出雲の歴史探訪に出かけ、古代に想いを馳せたことなど貴重な体験もしてきました。よい指導者に恵まれたことも長く続いた要因のひとつです。

つくし会

代表者 石飛 友江

島根県雲南市

〈推薦〉

島根県図書館協会 読書推進運動協議会

1976年に木次地区婦人会の読書会として「つくし会」が発足して今年で39年になります。現在の会員は6名で、木次図書館の研修室で月1回の読書会を開催しております。

この40年近くを振り返ると、初期のころ、元国語の先生に7年間

読書会が活力源といひみなさん



講師をしていただいたことが大きな原動力になったような気がします。本の感想はもちろんですが、

また、『大地の子』(山崎豊子)や『朱夏』(宮尾登美子)などを読み、先輩諸姉から戦時下における島根の様子や体験談を聴いて平和への願いを強く持つことが思われます。そして、文化協会の先生と一緒に神話の国出雲の歴史探訪に出かけ、古代に想いを馳せたことなど貴重な体験もしてきました。よい指導者に恵まれたことも長く続いた要因のひとつです。

また、『大地の子』(山崎豊子)や『朱夏』(宮尾登美子)などを読み、先輩諸姉から戦時下における島根の様子や体験談を聴いて平和への願いを強く持つことが思われます。そして、文化協会の先生と一緒に神話の国出雲の歴史探訪に出かけ、古代に想いを馳せたことなど貴重な体験もしてきました。よい指導者に恵まれたことも長く続いた要因のひとつです。

また、『大地の子』(山崎豊子)や『朱夏』(宮尾登美子)などを読み、先輩諸姉から戦時下における島根の様子や体験談を聴いて平和への願いを強く持つことが思われます。そして、文化協会の先生と一緒に神話の国出雲の歴史探訪に出かけ、古代に想いを馳せたことなど貴重な体験もしてきました。よい指導者に恵まれたことも長く続いた要因のひとつです。

また、『大地の子』(山崎豊子)や『朱夏』(宮尾登美子)などを読み、先輩諸姉から戦時下における島根の様子や体験談を聴いて平和への願いを強く持つことが思われます。そして、文化協会の先生と一緒に神話の国出雲の歴史探訪に出かけ、古代に想いを馳せたことなど貴重な体験もしてきました。よい指導者に恵まれたことも長く続いた要因のひとつです。

「この会に出るのが生き甲斐で楽しみだわ」と毎回参加している90歳とは思えない元気な人や、目の不自由な人のための朗読ボランティアをしている人もいて「いつまでも本が読めるといいね」と希望を与えられています。

今回の表彰をきっかけとして、読書会の立ち上げ時の様子や亡くなった先輩がたの顔やことばが思い出されました。いい機会を与えていただいたと感謝しています。

普段の読書会では、漬物やお菓子を持ち寄ってささやかなお茶会

をしますが、たまに料理屋で豪華な会食もします。次回も会うのが楽しみな読書グループ「つくし会」は、私たち会員の活力源となっています。

おはなしグループ「このゆびとまれ」

代表者 大野 智子

徳島県徳島市

徳島県読書振興協議会
(推薦)

2003年11月、ブックスタートルボランティアで知りあつた仲間が集まり、おはなしグループ「このゆびとまれ」を結成しました。メンバーそれぞれが、子育てをしながら続けてきた活動も今年で12年になり、おはなし会の通算回数もそろそろ300回を迎えようとしています。

子どもたちは大きくなり、いまでは絵本を読んであげることも少なくなりましたが、私たちメンバーはあい変わらず絵本に囲まれ、楽しい時間を過ごしています。現在のおもな活動は、徳島市立図書館をはじめ、地域の幼稚園、書店などで定期的に行うおはなし会です。近年は0歳児からの家庭での読み聞かせアドバイスを行つ

たり、子ども自身による読み聞かせ体験や、食育・環境・科学などテーマに沿った絵本講座にも力を入れていきます。

小さな子どもから大人まで、興味を持ってもらうのはたいへんな部分もありますが、子どもたちからの「おもしろかった」「絵本大好き」などの感想とともに、保護者のかたからも「こんな楽しみ方もあるんですね」「子どもと一緒に私も楽しめました」などの声をいただく、また頑張ろうとやりがいを感じます。

このように、私たち「このゆびとまれ」が変わらずに目指しているのは、絵本の楽しさ、すばらしさを子どもだけでなく保護者の方々が



絵本の魅力を大人にも味わってもらいたい

にも伝えたいということですが。

子どもと一緒に絵本を読む時間、図書館でのおはなし会での感動やワクワク感、それを子どもと共有する幸せを、子育て中の方々にも味わってもらいたいと思います。

絵本は子どもたちだけでなく、大人の心にも温かなメッセージを伝えてくれます。子どもと向き合い、戸惑い、悩み、泣いたり笑ったりしながら、日々頑張っているみなさんを、絵本はそつと応援してくれれます。

家庭での親子の読み聞かせの時間が、楽しくすてきな時間になるよう願って、私たちはこれからも読み聞かせの活動を続けていきたいと思ひます。

図書館ボランティアたんぽぽ

代表者 福田由美子
大分県津久見市

大分県読書推進運動協議会
(推薦)

図書館ボランティアたんぽぽは、1996年に津久見市民図書館が開館し、その年の12月に津久見市の読書活動に役立ちたいという意志のもと10名ほどで立ちあげ

たグループです。

当初は自宅で私設文庫などをボランティアでされていたかたを代表に、主婦、小学校教諭、元学校図書館司書、現役司書などがメンバーでした。20年を経て、現在は半分ほどメンバーが入れ替わり、20代1名、30代1名、40代1名、50代6名、60代1名、80代1名の11名です(うち4名は「人形劇グループD.O.」に参加)。

中心となる活動は、市民図書館での毎月第2、第4土曜日に関く1時間ほどの読み聞かせ会「おとぎのひろば」です。対象の子どもたちの年齢が0歳〜小学校高学年と広いため、メンバー2〜4人で、ひとりずつ子どもの年齢にあつた絵本を数冊用意しています。30分は読み聞かせの時間で静かに耳を傾けてほしい本を、それから参加型の絵本や紙芝居、大型絵本、日によってパネルシアターやエプロンシアターなどをします。

少しパフォーマンズの要素のある出しもので子どもたちと盛りあがりうれしそうな顔を見るのも、長い絵本を静かに聞いてくれるときも、どちらもやりがいを感じる瞬間です。残りの30分で工作や体を使ったゲームや伝承遊びをします。レクリエーションの材料や図

書館まつりでの出しものに使う費用は、津久見市社会福祉協議会からの補助金を活用しています。図書館まつりでは毎月の例会の読み聞かせを、人数、内容をふくらませ、中学生のボランティアを6名ほど募り、大型絵本を読んでもらつたりレクリエーションの手伝いをしてもらいます。

また、2年ほど前から社協主催のボランティア出前講座に登録し、学校の児童クラブや育児サークル、介護施設、地区のサロンなどでの読み聞かせ、市のチャリティショーでのスクリーンを使った紙芝居、部分司会など新しいチャレンジもしています。そのさいによく使用するのが、設立当初のメンバーを中心に制作してきた津久見市の民話や歴史を扱った紙芝居です。いままでに8作制作し、それらをまとめた『つくみんはなし』という本を自費出版しました。先輩がたの頑張りできあがつたすばらしい作品ばかりなので、たいせつに受け継ぎ活用し、新しい作品作りも頑張っていくつもりです。

来年は設立20周年になるので、なにか新しい試みをしてみたいと、メンバーで話しあいをしていきます。

581号別冊「2015 読書週間 行事報告一覽」追加・訂正のお知らせ

『読書推進運動』581号別冊付録「2015 読書週間 行事報告一覽」において、鳥取県からの報告の一部に掲載もれが、また、岡山県の図書館名に誤りがございました。関係者のみなさまに迷惑をかけたことを、お詫び申し上げます。なお、当協議会ホームページに掲載しておりますPDFは、5月中に訂正する予定です。

鳥取県 行事報告追加

- 『文字・活字文化の日』関連展示とつとり文学の情景展 県内が舞台の文学作品とその情景のパネルを展示
- 「鳥取県立図書館 子育てオータムフェスタ」本と一緒にハッピーファミリータイム ①「楽器づくり！ ワークショップ」講師 妻藤純子（大山町立中山小学校教諭） ②「音楽と絵本の読み聞かせコンサート」出演 鳥取市男性保育士会ジャングル★ジム
- 「図書館に行こう！ 本を読もう！ キャンペーン」 図書館利

用者に林明子オリジナル原画入り読書通帳を進呈 共催 県内市町村図書館

- わかさ生涯学習情報館（若桜町）
- 町男性職員グループ「読みメン」 関連本の展示
- 「読みメン」おはなし会
- 「秋のおはなし会」 パネルシアター、大型絵本、手遊び、歌出演（もこも）
- みささ図書館（三朝町）
- DE BEAUX SOUVENIRS（みささとフランスで出会った魅力と心 アントニーとゆかいななかまたちの展示会） 国際交流員が撮影した三朝町の子どもの写真、フランスに関する図書小物、絵画など
- 貸出冊数制限の拡大
- カードの再発行を無料で実施
- 期間中の貸出で、読書通帳としおりなどを配布 対象 〓子ども、一般
- 本のリサイクルショップ「ドラえもん」のポケット

伯耆町溝口図書館

- 「大きい字で見やすい！ 読みやすい！ 大活字本」 小説、歴史書、専門書などを展示 県立図書館の資料も展示
- 伯耆町岸本図書館
- 「感じてみよう！ ふれてみよう！ 世界の言葉」 世界各国語の図書、CD付き図書を展示

江府町立図書館

- 「本のリサイクル市」
- 「ものづくりクラブ」 工作教室 対象 〓未就学児、保護者

岡山県 図書館名訂正

- 誤 浅口市立金光つき図書館
- 訂 金光図書館（浅口市）

これにともない、鳥取県の行事主催者数は30から36に、都道府県別行事主催者数は1752から1758に変更となります。

また、『読書推進運動』第581号6ページ目「優良読書グループの歩み」に誤植がありました。こちらもお詫び申しあげ、訂正いたします。こちらのPDFは、4月28日に訂正しております。

- 6ページ5段3行目（「おやべ読書会」の記事内）「敵意を」運営」に訂正

事務局報告（4月）

- ☆4日 〔大震災〕出版対策本部会議に出席
- ☆5日 上野の森親子フェスタ」運営委員会に出席
- ☆5日 「本が好き 参加呼びかけを野間読書推進賞受賞者に発送
- ☆6日 大光監査法人に「平成27年度収支決算書」の作成を依頼
- ☆6日 機関紙「読書推進運動」581号入稿
- ☆7日 国立国会図書館国際子ども図書館 本吉理彦館長と打ち合わせ
- ☆7日 上野の森親子フェスタ2016」出版者説明会に出席
- ☆7日 機関紙「読書推進運動」581号別冊入稿
- ☆11日 「本が好き」運動について、出版広報センターと打ち合わせ
- ☆12日 上野の森親子フェスタ2016」についてBUZZと打ち合わせ
- ☆15日 機関紙「読書推進運動」581号別冊・別冊出来
- ☆20日 上野の森親子フェスタ2016」について国際子ども図書館と打ち合わせ
- ☆21日 西村俊男監事に「平成27年度収支決算書」の監査を依頼。その後、設楽敬一監事、佐藤潤一監事に順次監査を依頼
- ☆21日 「学校図書館図書整備5か年計画の継続・拡充のための集い」に出席
- ☆23日 5月11日 「第58回 こどもの読書週間」
- ☆23日 「子どもの読書活動推進フォーラム」に出席
- ☆23日 「国際子ども図書館講演会「私の子どもの時代に出会った本」に出席
- ☆25日 「講談社社長室」に出席
- ☆26日 大震災出版対策本部運営委員会」に出席
- ☆26日 「開催 27年度 第1回 常務理事会」を開催。出席5名、欠席4名
- ☆平成27年度事業報告書と平成27年度収支決算書を審議、承認

編集部 & 事務局のひとこと

- このたびの熊本県・大分県地震で犠牲となられた方々にご冥福をお祈りし、被害に遭われたみなさまへ心よりお見舞い申しあげます。
- 5ページ目のBIB展特集に掲載した、ミロコマチコさんの原画。広松由希子さんから送られてきた写真データは、パソコン上で見ても鮮やかな黄色が印象的で、「こだけカラーで印刷できないかしら」と残念になるほどでした。「こどもの読書週間」を記念して、絵本原画展を開催された図書館も多くあつたと思いますが、その会場で見慣れた絵本と原画のサイズ、紙の質感、絵の具のボリュームの違いなどに驚いたかたもいたのではないのでしょうか。9月開催の全国絵本ミュージアム会議が目指すネットワークづくりで、原画展がより身近に開催される環境が整うといいなと思います。
- ところで、絵本「オレときいろ（WAVE出版）」では、原画の黄色の魅力を引きだすために、思い切った通常とは異なるインクを使用したとのこと。太陽が降りそぐ、上野の森親子フェスタ」の会場でも、黄色は負けることなく輝いていました。商品である書籍の制作には、コストの問題がいつもありますが、書籍は作家の作品でもあり、その作品世界を十分に表現して読者に届けるためには、コスト面での冒険が必要となる場合もあります。出版物への軽減税率適用は、作家の表現の豊かさを守るため、その豊かな表現を読者が享受するためにも、必要なのではないでしょうか。（伸）